

商店街に新たなふれあいの空間が誕生

(仮称) 市民交流プラザ基本設計を公開

問企画調整課プラザ建設準備室 ☎⑤6712



老朽化した中央公民館や市民図書館など公共施設を集約・再編し、複合型施設として、それぞれ中心市街地に「(仮称)市民交流プラザ」(平成25年度完成予定)、市民図書館周辺に「(仮称)教育プラザ」(平成26年度完成予定)の整備を進めています。

(仮称)市民交流プラザは、市民文化センター(視聴覚センター)との活用と合わせ、中央公民館などの役割を果たすものとなります。子どもから高齢者まで広く市民が集う場。交流が生まれる場。市民に親しまれる、そんな空間を目指しています。今月号では(仮称)市民交流プラザの基本設計をご紹介します。

◀ 昨年のプロポーザルに提出されたラフスケッチ

■ (仮称) 市民交流プラザ設計者

隈研吾建築都市設計事務所 Kengo Kuma & Associates

くま けんご
隈 研吾 さん



1954年横浜生まれ。1979年東京大学建築学科大学院修了。コロンビア大学客員研究員を経て、2001年より慶應義塾大学教授。2009年より東京大学教授。

1997年「森舞台/登米町伝統芸能伝承館」で日本建築学会賞受賞。以降数々の賞を受賞。

最近の国内代表作は、浅草文化観光センター、長岡シティホール「アオーレ」など。現在、歌舞伎座の建て替えプロジェクトが進行中。



▶ 浅草文化観光センター

十和田市の中心商店街に沿って計画された、市民交流施設をデザインするに当たり、どのような要素が市民生活を支えていくのかを考えを巡らせていきました。

まず、十和田市の既製商店街を歩きまわり、大通りと直交するアーケード空間に、魅力と可能性を感じました。そのアーケード空間によって、福祉教育機能を持つ諸室をつなぎ、さらにこのアーケード空間を折り曲げて、道のような線形空間にタマリと陰影を与えることで、諸室の中には収まりきらない多様な市民活動やコミュニケーションを誘発しようと考えました。

屋根は下部の室内の分割とは無関係に「街並み」と「積雪対策」のロジックに基づいて折りたたまれ、その折り紙状の有機的形状と下部のプランニングとの出会いによって、空間の多様性が創造され、まるで活気づいたマーケットのように、利用者の皆様の生活に欠かせない建築となることを目指しています。